

「徳島県スポーツ推進計画」に係るパブリックコメント実施結果

平成29年9月28日（木）から平成29年10月20日（金）まで、「徳島県スポーツ推進計画」についてパブリックコメントによる御意見を募集したところ、4人の方から71件の御意見をいただきました。

御意見の概要と県の考え方は次のとおりです。

なお、複数の趣旨を記載いただいた御意見は、細分化させていただきましたので御了承ください。

【全体について】

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
1	<p>県も結果にのみこだわっているように思います。「人智を尽くして天命を待つ」の一言に尽きると思います。実現可能な取り組みもせず、予算や施設、トレーナーの「大会のみへの派遣」など形だけの方策をして、結果がでないことに不満を持っているように感じました。必要なのは、大人の連携とスポーツへの考え方の転換です。</p>	<p>本計画においては、本県の取組の結果を可視化するため、施策目標を設けることとしております。</p> <p>数値目標は、単に結果のみ追求しているのではなく、あくまでも施策推進の過程を確認する成果の指標であると考えています。「輝くとくしま」（主に競技力向上）「元気なとくしま」（主に子どもの成長）「豊かなとくしま」（生涯スポーツ）「ふれあいとくしま」（スポーツを通じた価値創出やそのためのソフト・ハードの環境整備）、それぞれの推進であり、そのための方法です。</p> <p>目標値についても、未達による罰則を設けるのではなく、一丸となって目指すべき目安としてお示ししております。</p>
2	<p>最初の一年をいつ始めるか？今は同じところに予算つぎ込んで、少しの結果変動に一喜一憂していると感じています。子どもが成長し活躍する頃までの30年計画ぐらいを見据えなければならぬと思います。現計画の「選抜された一部の人間にかかる費用は全面的に用途を変えるべきだと思います」30年先に効果の現れることに絞り、目先の強化は「諦めるしかない」と明確にするような極端な方針を打ち出し、全県挙げて取り組む姿勢で挑むべきです。そのプロセスの中にこそスポーツの素晴らしさ、本質、目的、楽しさなどがあります。順位という結果を求めると目的はそこになってしまいますが、目的は違うとこにあると違った結果になると思います。</p> <p>誰もやってこなかったから現在があります。10年以上はかかる取り組み→最初の1年間が始まらないと、どんどん徳島はすたれていくだけです。</p> <p>本来各県やチームの取り組みより、文科省や日体教、各競技の協会が率先してやるべきことだと思います。ただ、まっけていてもはじまらないのでできる事からやりはじめなければいけないと思います。</p> <p>競技力向上や順位アップの前に取り組むべきことがあります。これを実現していく中でしか、徳島が、他県と渡り合えることはできないと確信しています。</p> <p>大人は、解説者ではなく解決する者となり、未来の子ども達を育てなければならぬと思います。</p>	<p>長期的な視点は重要です。本計画においては、「県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」の推進」を最終目標としたうえで、そこに向かって4つの憲章区分である「輝くとくしま」「元気なとくしま」「豊かなとくしま」「ふれあいとくしま」それぞれの推進を基本目標に掲げ、総合的に施策を推進することとしています。</p> <p>本計画の各論においては、当面5年間に取り組むべき事柄についてお示ししております。</p>

【「元気なとくしま」の推進】

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
3	その競技がなくなるわけではないから、その競技を嫌いにさせてはいけないという考え方。「やる気ないなら帰れ！」と言う指導者しかいないと言っても過言ではない中、いかにこう言った指導が間違っていて、非効率で、将来何の役にもたっていないかを、わかってもらい、真の指導が理解した人が指導にあたるかが大切で、専門知識の有無は二の次です。子どもたちの一人一人の人生の糧になりるように大人が知恵絞って。	本県の取組のなかに、「運動好きの子を増やす」取組もあるのですが、見えづらくなっておりました。 そこで、「元気なとくしま」の目標としてはっきりと掲げ、達成に向けて取り組んでまいります。

【「豊かなとくしま」の推進】

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
4	目標に1年間に1度もスポーツをしたことがないものが0パーセントにとしていますが、スポーツがしたくてもできない、例えば病気の方とかどうするのですか。	御指摘を受けまして、「スポーツに関心のない人の割合0%」と変更いたしました。 新たな目標では、「する」だけでなく、「みる」（競技を観戦する）「ささえる」（スポーツボランティア等、直接／間接に支援する）を含めて、関心のない方の割合を0%にしていくことを目指します。

【その他、本県スポーツ施策全般に関すること】

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
5	徳島県が香川県の協力を得て、徳島県立鳴門高等学校・なぎなた部と香川県立琴平高等学校・なぎなた部との定期交流試合の実施でなぎなた競技の振興を行う。	部活動指導に関して、御意見をいただき、ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。
6	徳島県が大相撲の宮城野部屋所属の横綱・白鵬関の協力を得て、板野高校相撲部と名西高校相撲部の相撲強化を行う。	
7	徳島県の橋渡しで、板野高校相撲部と名西高校相撲部が高校相撲部の強豪校である埼玉県の私立の埼玉栄高校相撲部と練習交流試合を行う。	
8	徳島県が福島県の協力を得て、剣道競技の強化を行う。	
9	各チームがバラバラで遠征に出掛けるとそれぞれ費用がかかる。莫大な費用を一ヶ所に集めることができれば、県内で有名校や指導者など招くことができる。 同じ費用を出すなら、各学校から少しずつ持ち出し、有名指導者を招き、プレー以外の面（メンタル、フィジカル、栄養、チーム作り、運営、大人の役割、学校との連携）もできる事は全て学び、県内でも全国トップクラスの指導内容ができるよう学ぶ機会を定期的に持つ。	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
10	<p>理不尽なことに耐えるのが部活ではない。 部活＝競技という考え方だけでなく、生涯スポーツの入り口というは考え方も浸透させていく。技を磨く考えと、大会は出なくてもいいとの考えが同居できるチーム作りができるチームや学校がいい。高校でいえば、部活の価値は、「高校からその競技をはじめた人数で評価される」ことが当たり前の時代に早くなった都道府県が、スポーツで伸びていく県だと思っています。</p> <p>社会で今必要とされる人は、どんな人か。それを育てられる場所でなければ部活動の存在意義はない。部活動特にスポーツの素晴らしいところは、ミスができることです。ミスをして次のことを考えられるようになるために、スポーツの役割は大きいと思います。</p> <p>プロ選手の下部団体ではない。 週に一度は休養日を設ける。接骨院に通ったり、栄養などの知識を習得する日にあてる。 レギュラーと補欠がどうしてもできてしまう。こんなときも、1週間での総運動量を同じになるように。チーム内で約束していることはあるかもしれないが、県を挙げてしているところはあるだろうか？</p>	
11	<p>余白を持たせて次の学年へという考え方。現状、小学生は、小学生でタイトルをと各世代ごとにタイトルを目指していて、ただ勝てればいいとの指導がまかり通っています。これでは、世界で戦える人は育ちません。小学生から社会人までの流れの中で段階的に成長させて行くような仕組みを作らなければ。</p> <p>目先の一勝よりも、一生の勝利は全員がつかめるように、次の世代へ進んだ時に、より高度な指導が受けられるよう、「面での取り組み」を県が各指導者間をつなげる役割をする必要を実感しています。</p>	
12	<p>県内で言えば公立でも恵まれた私立の環境に近いことはできるが、これまでやっていなかったのに私立が…と言うのは大人の努力が足りない。</p> <p>部活は、顧問任せでは、できない。人口少ない中で他県を勝ろうするなら、一丸となって取り組むべき。</p>	
13	<p>徳島は、施設がないとか人口が少ない、人材がないとかすぐに言うけど、できることを全力でやらなければ、強くはなれない。個人の努力ではどうにもなりません、間違った大きな流れを断ち切り、みんなでスポーツのこと見直していくためには、県からの方針や、指導しかありません。</p>	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
14	<p>雑用は上級生。全員が一番になることはできません。優勝する子がいれば、最下位の子もいます。ですが、目の前のことを精一杯することは誰にでもできます。</p> <p>雑用は下級生、先輩達がしてきたから自分達もそうするのではなく、目的達成のために必要なことを全員がする。単純にこれだけです。</p> <p>もう1つは、責任の持ち方です。一年生は自分に責任を持つ、二年生は下級生に責任を持つ、三年生はチームに責任を持つ。これでチームはうまくいく。この考え方を県内のチームに浸透させることができれば、もっと徳島のスポーツは盛んになると思います。</p>	
15	<p>具体的数値も出すべきです。中学高校の部活別チーム数と人数を示すことで、いかに徳島は他県に比べ脆弱かが、わかり今のままの方法で県で一番になったところで「無意味だ」と思い知ることも必要。</p>	
16	<p>高校で最後試合の日に何するかが大切。その競技に打ち込むのは高校最後の大会までになる子がほとんど。そこで終わりではないことを明確にしていくことで、永続的にその競技人口を維持していくことに繋がると考えます。</p> <p>クラブチームは、協会の運営に携わってもら。協会に協力することで、高校で活躍した選手を紹介してもらえる特典を得られるなどメリットは大きい。指導者の乏しい、学校現場の外部コーチとして人材を求め場にもなる。</p>	
17	<p>月に一度は、指導の日を設けて、教える側、教わる側、支える側の認識を一つにしていくことが必要。正式的な面、技術的な面、学ばなければならぬことは無限にある。是非導入を。</p> <p>提案・指導の日 月に一度は、県内で合同練習会。年齢に関係なく、県全体のレベルアップの目的で参加するもの。指導者同士の勉強なども行う。遠征に行くこともなく親の費用削減になり、効果も絶大。別に挙げた、保護者組織の構築などもこの場で整えていくことができる。別に挙げた指導の日をこの日に充ててもいいと思います。</p>	
18	<p>「専門の指導者が」とよく耳にするが、指導の8割ぐらいまでなら、経験なくてもできると断言します。大切なのは、「経験があってもわかってない」「経験がないからできない」のどちらでもなく、指導者が最新の手法を学び、伝えること。人材のせいにせず、県全体挙げて、学んでいく姿勢が大切です。</p> <p>具体的な指導方法などを、指導者を一同に集めて講習するしか方法はありません。</p> <p>全員が、基本的な最新の技術の知識を知り、実行していくための実践的講習会の開催が必要です。</p>	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
19	<p>本当の根性とは、明確な目標に向かい、段階的に課題に取り組み達成に向け、地道な努力を積み重ねられることを根性だと思います。 「厳しい練習に耐えたから、今がある」という考えは違う部分が多く、これは過去の苦しかった経験を否定したくないだけではないかと考えます。県としても各指導者に指導しなければならないと思います。 ただ耐えるというこれまで言われた根性や暗記し記憶することから「創造」する力をを求められる。いかに自分達で目標を掲げ、それを達成するために必要なことを、自分達で一つ一つ、段階的にクリアしていくかが、将来の子どものためになる。</p>	
20	<p>動ける体作りの重要性を学ぶ。「技術は動きの上に乗る」が基本なのに、どうしても目先の技術指導をしているのが現状。それよりも、高校になり初めて専門的な技術・戦略・戦術を深く追求する。そのためにも、小学校や中学校、高校の体育の時間はもちろん、部活動にも、地元の徳島大学の荒木秀夫教授のトレーニングなど取り入れるのはどうだろうか？</p>	
21	<p>部員が辞めることに対して、アドバイスをしてほしい。新たにその競技をはじめの子を作るのにどれだけ苦勞をするか。なのに、特に高校は簡単にやめさせてしまう。 こんなことも顧問頼みにせず、県の問題だととらえて、カウンセラーを派遣するなど対応してほしい。 協会や県教委などにも相談をかならずする制度に。</p>	
22	<p>まずは、その競技に関わっている人へ感謝の気持ちで接することから始めなければ。民間意識がないと感じる。 会場校の生徒に駐車場の案内係をさせる必要があるのか？ 案内係は協会が手配してしなければならないこと。その競技のOBなどいくらでも人材はあるだろう。そういった人脈づくりをしていないことが問題。</p>	
23	<p>指導者同士の繋がりによる、練習試合は、県内で勝つための方法。全国と戦おうとするなら、県内チームは協力し合わなければ、人口の少ない徳島では太刀打ちできない。 四国大会での出来事です。徳島県の2位のチームが、2回戦で負け。県1位のチームが準決勝に進みました。あろうことか、県2位のチームは他県の準決勝のチームに県1位のチームの弱点を教えていたそうです。こういったことが何で起こるのかは、県にも責任があると思っています。「目的や目標は何であり、どういったことをして、何をすることが」明確になっていないからです。</p>	
24	<p>大会は、試合をこなすだけでいいのか？ 大会ごとに、全国で活躍できているチームの先進的取り組みを紹介したり、施設の清掃や整備をする。また、社会で役に立つ知識を習得する場として大会をすることが求められている。 会場の自販機横のゴミ箱が、いっぱいになってたら…どうするか？ ゴミ袋に空き缶移しておけばいいだけ。こんなことを当たり前ができるスポーツの団体に成長してほしいと思います。</p>	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
25	<p>重要なのは、技術ではなく「哲学」＝なぜあなたは、そのスポーツを頑張るんですか？＝即答できる人はすくないと思います。精神面のとか言ってるのは都合よく実ばかりをつけるための道具でしかない、社会で通用しないもの。</p>	
26	<p>部活で運動してる子もしてない子も、生涯にわたってスポーツ好きで、健康に過ごせるような土台づくりが体育の授業では行われるべきでは？ スポーツ好きの父母に育てられた子もスポーツ好きのになる可能性は高い、人口の少ない徳島では、これが特に大事だと確信しています。長くその競技に携わっている子が上位を占めるのはあまりいい傾向ではありません。</p>	
27	<p>「自然体バレー塾 草野健二さん」のブログを一度ごらになってください。 特に、指導者向けに作っている、動画には考えさせられます。 徳島にも数回講習に来て聞きに行きましたが、先進的で素晴らしいです。 バレーボールに限らず、すべてのスポーツの基本的考え方を提唱され、全国に毎週講習に飛びまわっています。 日本中でこの考えでバレーボールに取り組めば、再び世界で戦える全日本になることができるとさえ思います。 ブラック部活、「部活自体無くしてしまえ」 この考え方は先進的だと思います。ぜひ、参考にしてください。</p>	
28	<p>協会の人間が、社会人のクラブチームの人大会の補助などに活用できるようにすることと同じように、保護者の中にも、その競技を志していた人もいるし、協力できる人もいる。医学などの専門の知識を持つ人などは積極的に活躍してもらいたい。 保護者なくては、選手はありません。指導者・選手・協会・保護者・学校はみんな共同体であり、協力者であり、オープンな関係だと思っています。 しっかりとしたルール決めのない現状では「顧問頼みになってしまっている」。 公立高校の多い徳島県において、先生は異動してしまうものとの認識が必要。</p>	<p>教員の負担軽減についての御意見ありがとうございます。御指摘のとおり、外部指導者制度については文部科学省からの指針も出ておりますところ、現在、効果的・効率的な活用を研究・検討しております。</p>
29	<p>土日の部活動は、先生は原則不参加にすることも検討を。部活動は外部コーチなどに任せられるように法律は変わっていますので、活用を。</p>	
30	<p>たまたま才能の飛び抜けた子が現れた時、日本一、世界一になれる子を育て続けられる土壌作りを、1日も休まず作りつづけることが、大人の仕事。 提案として、このチームはこれに関しては日本一なんじゃないかというものを一つは持つよう推奨してはどうだろう。一つから二つ、三つへと増えていきいつか本当に日本一になることができるかもしれない。これこそがまさにvs東京の考え方にも通づるものがあると思います。</p>	<p>部活動の環境づくりについての御意見ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
31	<p>全国規模で、優秀な成績の選手ばかりをつまみ食いしているようでは、未来がありません。 下手でもいい体格のすぐれた選手が続けられる雰囲気づくりは人口の少ない徳島にとっては外せないこと。 とにかく、高校部活動の間口は狭すぎる。経験者ばかりでそろえるのは、ダメです。現状のように競技人口先細りしてきた原因です。</p>	<p>生徒の県外流出に関し御意見ありがとうございます。おっしゃるように、生徒自身の個人の意思を尊重することも重要だと思います。しかしその理由が徳島に魅力ある学校がないことや、部活がないという消極的な理由で流出する生徒への対応として、我々もできる限り環境整備（指導者育成、魅力ある学校づくり）を図っていきたいと考えています。 いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
32	<p>選手の県外流出問題。たいして問題ではないと考えます。その子がやりたい場所でやりたいから行くだけのことむしろ応援してあげてもいいぐらい。徳島の名を全国に広めるチャンスととらえてもいい。 選手が県外に行くことにいい顔しない。こんな考えが稚拙です。その子が「ここなら県外行かなくても伸ばせる。他県と戦える」と思えるような取り組みをして、それを他県にもアピールすることが必要。</p>	<p>生徒の県外流出に関し御意見ありがとうございます。おっしゃるように、生徒自身の個人の意思を尊重することも重要だと思います。しかしその理由が徳島に魅力ある学校がないことや、部活がないという消極的な理由で流出する生徒への対応として、我々もできる限り環境整備（指導者育成、魅力ある学校づくり）を図っていきたいと考えています。 いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
33	<p>県外に流出というが、県内でも他県の強豪チームと同じだけの経験ができるよう、指導体制を整えればいいだけのこと。これは、現状のように顧問や監督のみに依存したやり方ではなく、例えば、県も個別にチームに対して指導方法や部の運営方法、メンタル、フィジカル、栄養、骨格矯正など指導していく必要があるとおもいます。外部指導者の力をこう言った面で、もっと活用していかなければならないと思います。</p>	<p>生徒の県外流出に関し御意見ありがとうございます。おっしゃるように、生徒自身の個人の意思を尊重することも重要だと思います。しかしその理由が徳島に魅力ある学校がないことや、部活がないという消極的な理由で流出する生徒への対応として、我々もできる限り環境整備（指導者育成、魅力ある学校づくり）を図っていきたいと考えています。 いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
34	<p>他県から、人を呼び込めるように。徳島ならレギュラーになれると県外校を志望する子を紹介してもらおう。県も住宅の斡旋なども連携して行えば。</p>	<p>生徒の県外流出に関し御意見ありがとうございます。おっしゃるように、生徒自身の個人の意思を尊重することも重要だと思います。しかしその理由が徳島に魅力ある学校がないことや、部活がないという消極的な理由で流出する生徒への対応として、我々もできる限り環境整備（指導者育成、魅力ある学校づくり）を図っていきたいと考えています。 いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
35	<p>トップスポーツ校への費用は、自分たちのために使うのではなく、全体のレベルアップのために使う発想が必要。徳島県全体のレベルアップがなされてはじめて公的資金を使った意味がある。 その用途も各チーム任せではなく、他のチームも活用できるものにするなどしなければなりません。 自分のチームが勝ちたいというエゴは捨てなければ、子ども達の未来はありません。</p>	<p>トップスポーツ校制度のあり方について御意見をいただき、ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
36	<p>トップスポーツ校が、試合で勝ってはいるが部員が辞めてしまったら大きく減点する制度を。事情があって辞めるのは仕方がないが、顧問だのみになっている現状を改善のために。一度はじめた競技を続けてもらうために、やめることは減点になることを制度化し、部員がやめると言い出したら、県も相談にのる。</p>	<p>トップスポーツ校制度のあり方について御意見をいただき、ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
37	<p>「試合という物差しで測り勝ったから表彰」というスタイルから脱却し、勝ち+αの何かがないと表彰されないような制度にするべき。 表彰に費用かけすぎです。表彰は、大会でもらい、協会からもらい、また県からもらい、さらに教育委員会からもらう。大会だけでもらうのは十分です。ほかに充てるべき費用はある。</p>	<p>表彰制度のあり方についての御意見、ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
38	<p>全国大会出場チームは報告会の義務を。全国のレベルがどうだったか、今後県内のチームはどんな取り組みをしていくべきか、協会の間人も同行し、いろんな人脈を作ったり、情報収集をしてくる。中央の各競技の役員とも接点をもち、徳島は「弱い」地方でも強くするための支援策や情報を有効にもらえるような道筋を作るなどは可能。こういったことは、施設がなくてもできること。大人の努力次第でどうにでもなることだと思う。</p> <p>えひめ国体の選手や関係者には当然パブリックコメントの意見をもらっているのでしょうか？ まずはそこからではないのでしょうか？</p>	<p>国体終了後、本県では各競技団体から大会総括や、本県への要望を聞くヒアリングを行っております。今後も、各競技団体と連携を密にし、ニーズや状況に応じた施策を検討して参ります。</p>
39	<p>徳島県が日本陸上連盟の協力を得て、競歩の陸上競技の普及促進を行う。</p>	<p>御提案ありがとうございます。本県では各企業、団体との連携によってスポーツイベント等を行っており、くしくも今年度、御提案にあるような、ラジオ体操を飯泉知事はじめ職員が行っている映像をYouTubeにアップロードするなどの取組も行ったところです。その他の御意見につきましても、今後の本県スポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
40	<p>徳島県が「スポーツ立県とくしま」を目指してNIKE, Adidas等のスポーツメーカーと「スポーツ振興に係る包括的な連携協力協定」の締結を行う。</p>	
41	<p>徳島県がコナミ&スポーツクラブの誘致を行って、スポーツの普及促進を推進する。</p>	
42	<p>徳島県がNHKと一体となつて、テレビみんなの体操又はラジオ体操(ラジオ体操第一及びラジオ体操第二)の普及促進を行う。</p>	
43	<p>昨年Vリーグが50周年を迎えた時の、オフィシャルサポーターに徳島県出身で元バレーボール選手でもあった、歌手で女優の上野優華さんが選ばれていました。このことは、県民にとっても喜ばしいことであるとともに、注目を集めるために、活用させてもらう格好の材料だったと思います。例えば、特別表彰を行う。</p> <p>事前に協会の会長にも助言をしたのですが結局なにも行われませんでした。</p> <p>県からの指導も必要だと感じます。「こういった方針でやってほしい」と要望を発表するだけでなく、具体的目標を出させ、達成度合いの進捗なども検証していくことも必要でしょう。</p>	
44	<p>ナショナルトレーニングセンターは、一部の選ばれたアスリートのためではなく、そのほかのはるかに多くに人をも育てるの物でなければならないと考えています。</p> <p>①経験に基づいた指導ではなく、知識を活用できるように、今後そこに行くことのできる選手をより多く育てることが必要。</p> <p>②日本のトップのレベルアップを考えてるから、知識を地方にもフィードバックしてもらえよう交渉し、最新の知識を県内に広める。</p>	
45	<p>専門家が必要なら、元アスリートが徳島に住んでもいいと思えるように、現役時代からアプローチかけていくなどの対策はできないでしょうか。</p>	
46	<p>徳島県が「関西広域連合 広域観光・文化・スポーツ振興局」と一体となつて「2019年ラグビーワールドカップ日本大会」, 「2020年夏季オリンピック東京大会」, 「ワールドマスターズゲームズ2021年関西大会」の世界三大国際スポーツ大会の開催を機会に、スポーツ文化の振興やスポーツ・ツーリズム等の推進を行う。</p>	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
47	徳島県が「とくしまマラソン」と世界六大マラソン大会との連携を行うことで、マラソンを通じての世界的なスポーツ交流人口の拡大の推進を行う。	「とくしまマラソン」は、2015大会から、AIMS及びIAAF認証の国際大会として国際枠を設け、2017大会では160名余りの方に参加していただいているところです。今後さらに海外に向けた情報発信に努め、知名度向上を図ってまいります。
48	徳島県が「全国ご当地マラソン協議会」に加盟して、とくしまマラソンの更なる発展を行う。	「全国ご当地マラソン協議会」が発足したことは承知しており、今後協議会がどのような活動を行っていくのか見守っているところです。
49	徳島県が日本陸上競技連盟の協力を得て「とくしまマラソン」に東京大手町・箱根間往復大学駅伝本選出場大学枠を創設する。	「とくしまマラソン」においては、毎回実業団選手や、大学駅伝選手等をゲストに迎え、「とくしまマラソン」の競技性を高めるとともに、一般参加ランナーの刺激にも一役買っているところです。全国的に有名な実業団・大学の駅伝選手に「とくしまマラソン」に出場いただくことは、より大きな効果が期待できるものと考えられますが、駅伝選手がフルマラソンを走る場合、距離の関係でリスクを負うことになるため、躊躇されるケースが多いのが実情であります。
50	徳島県が日本陸上競技連盟の協力を得て「とくしまマラソン」に、ニューイヤー・全日本実業団駅伝大会本選出場実業団枠を創設する	同上
51	徳島県が「関西広域連合 広域観光・文化・スポーツ振興局『スポーツ部』」と連携して、とくしまマラソンと大阪マラソン、京都マラソン、神戸マラソン、奈良マラソン、紀州口熊野マラソンとのマラソンを通じてのスポーツ交流人口の拡大を行う。	関西広域連合が開催するワールドマスターズゲームズ2021関西において、とくしまマラソンはオープン競技として位置づけられているところであり、関西圏からも多くの方に御参加頂けるよう連携して取り組んでまいります。
52	徳島県にプロのバスケットボールクラブの創設を行って、プロバスケットリーグのBJリーグに参加する。	本県には、現在「徳島ヴォルティス」「徳島インディゴソックス」の2つのプロスポーツチームがあり、その活動は多くの方に夢と感動を与えるとともに、青少年の健全育成や地域の活性化などにも繋がっています。
53	徳島県と他の三県が一体となって四国のプロ野球球団の誘致を行う。	御提案をいただきましたプロバスケットボールクラブの創設、プロ野球球団の誘致については、実現までに越えるべきハードルが多くありますが、プロスポーツの持つ力が発揮されるよう引き続き支援を行ってまいります。
54	徳島県が徳島ヴォルティスのクラブと一体になって、徳島ヴォルティスを世界に通用する世界標準のチームや世界水準のチームにする。	県では、徳島ヴォルティスがコンセプトとして掲げる「県民・企業・行政の三位一体による運営」「身の丈に合った経営」「県民に愛され、地域の誇りとなるチームづくり」が達成されるよう支援をして参ります。 御意見については、今後の施策を進める上で参考とさせていただきます。

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
55	「関西広域連合 構成府県住民体育大会」(国民体育大会の関西広域連合版)の開催	<p>様々なイベントの御提案、ありがとうございます。</p> <p>このうち、「みやざきフェニックスリーグ」については、NPBのみならず、韓国プロ野球、また四国アイランドリーグplus選抜も参加し、開催をされております。</p>
56	徳島県が野球のフェニックス・リーグの開催をJAアグリあなんスタジアムへの誘致を行う。	<p>ご提案いただきましたフェニックスリーグの試合の誘致については、短期間で数多くの試合が開催されるリーグの性質上、日程・移動の面でのハードルが高く、難しい状況です。</p>
57	徳島県と徳島県ラグビー協会が連携して、ラグビー・トツプリーグの公式戦の開催の誘致	<p>県ラグビー協会は、ラグビーワールドカップの機運醸成に向けて、本年9月9日、本県で5年ぶりに開催されるラグビートツプリーグ公式戦を誘致しました。</p>
58	同じスポーツをするもの同士が、集まれる機会を作る「スポーツ婚活」の開催。スポーツをする者同士が結婚し、子どもが生まれたら、スポーツに親しむ子が増えるでしょう。こういった機会は重要だと思います。もっと余暇を楽しむ、異性との交流を増やし、人口を増やすこと。これはスポーツの得意分野だと思います。	<p>県でも、ジョージア代表の事前キャンプ地誘致を目指して取り組んでおりますところ、今後とも取組を推進し、県民のスポーツへの関心を高められるよう努めます。</p>
59	「2020年夏季オリンピック東京大会」の公式エンブレム・カラーのジャパンプルーの徳島県の阿波藍を国内外にPRを行う。	<p>スポーツと文化の融合についての御提案ありがとうございます。阿波おどりの魅力は初めて見る者や外国人に分かりやすく、国境を超えてその場にいる者の一体感を生み出すことにあり、本年6月には、東京オリ・パラの開閉会式等で披露することを国へも政策提言させていただいたところ です。</p>
60	徳島県が「2020年夏季オリンピック東京大会」の開催期間中において、出場する各国の選手団の役員並びに選手にジャパン・ブルーの阿波藍染めのハンカチとバスタオルを贈呈する。	<p>今後も日本を代表する伝統文化「阿波おどり」の披露に向けて魅力を発信して参ります。</p>
61	「2020年夏季オリンピック東京大会」の開会式で阿波おどりの演舞を行う。	<p>また、その他挙げていただいている御意見につきましても、参考にしながら徳島ならではのPR方法を考えてまいります。</p>
62	平成30年度開催の「福井県国民体育大会」、平成31年度開催の「茨城県国民体育大会」、平成32年度開催の「鹿児島県国民体育大会」(2020年夏季オリンピック東京大会開催)の各それぞれの国民体育大会の開会式における役員並びに選手の入場行進において、徳島県役員・選手団がジャパンプルーの阿波藍染めのハンカチを振って入場行進する。	<p>県では、海外との国際スポーツ交流をさらに積極的・効果的に推進するため、本年10月に「国際スポーツとくしま親善大使」を新たに創設しました。今後、いただいた御意見も参考にしながら、新たな大使委嘱を検討してまいります。</p>
63	徳島県が「国際スポーツとくしま親善大使」に「徳島ヴォルティス」のリカルド・ロドリゲス監督氏への委嘱を行う。	

番号	御意見の趣旨	御意見に対する県の考え方
64	徳島県が「とくしまスーパーアリーナ」の建設を行う。	<p>施設整備についての御意見ありがとうございます。</p> <p>御提案のスーパーアリーナ等につきましては、財政状況等もございませぬので、「徳島ならではの」のスポーツ施設を目指し、鳴門・大塚スポーツパーク等、スポーツ施設の一層の充実を図りたいと考えております。</p> <p>なお、とくしまマラソンの開催に合わせて、フルマラソン中級者を対象とした講座（全8回）を「鳴門・大塚スポーツパーク」で、初心者を対象とした講座（全8回）を「あすたむらんど徳島」で開催し、公園内仮設コースを使用し、実技講習も行っているところです。</p> <p>いただいた御意見につきましては、今後のスポーツ施策の参考にさせていただきます。</p>
65	<p>とくしまマラソンが始まって10年。ランナーは増加しているにもかかわらず、安心・安全に練習できるコースの整備が未熟な印象があります。</p> <p>ぜひ、安心して練習できる場所（ウォーキングとランニング専用コース、夜間照明や更衣室・ロッカー等）の整備に取り組んでいただきたいです。</p> <p>身近な場所に、清潔で気軽に取り組むことのできる場所があると、マラソン人口も増加していることから、「自分も挑戦してみよう」と思う人が増えるのではないのでしょうか。</p> <p>ぜひ、ご検討をよろしくお願いいたします。</p>	<p>メディア活用の御提案ありがとうございます。本県では、総合型クラブが行うイベントなどを、SNS、Web（県ホームページ、Love&Fanホームページ）などで発信し、生涯スポーツの普及に取り組んでおります。引き続き周知を図ってまいります。</p> <p>また、熱中症の注意喚起について、本県では講習会を開いて周知しているほか、スポーツ庁からも初夏に通知が発送されております。</p> <p>また、環境省は夏期において、熱中症の目安となる暑さ指数のメール配信サービスを行うなど、対応を行っております。</p> <p>御提案の方法では実際の掲載回数も予想できないことから、費用の問題もあり、実現は困難かと思いますが、参考にさせていただき、施策を考えてまいります。</p>
66	スポーツ施策は、民間感覚がない気がしますメディアももっと活用するべきでしょう。マスコミが勝った負けたに注目し続けたのも原因です。	<p>本県では、平成23年度から「県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」」を推進していくための事業を効果的、効率的に実施するため、「スポーツ王国とくしま推進会議」を設置し、スポーツ施策を積極的に進めてきたところです。</p> <p>今後も、いただいた御意見を踏まえ、「スポーツ王国とくしま」を一層強力で推進してまいります。</p>
67	徳島新聞のスポーツ面は、天候の都合によって競技数が減ったときに、自社発行の書籍の広告を入れて調整しているようです。こんなスペースを有効活用できないか？例えば、熱中症の注意喚起。	御提案ありがとうございます。今後のスポーツ施策の参考にさせていただきます。
68	徳島県が「2020年夏季オリンピック東京大会」の開催を契機に「スポーツ立県とくしま」、「スポーツ王国とくしま」を構築する。	<p>国立大学法人鳴門教育大学は、高度な自治権を有する教育機関ですので、コースの新設・廃止、カリキュラムの策定について、本県が指示できる立場にはありません。</p> <p>本県独自の優秀な指導者の輩出に向けた取組を推進してまいります。</p>
69	徳島県が徳島県立鳴門渦潮高等学校・スポーツ科学科を筑波大学体育専門学群、早稲田大学スポーツ科学部、日本大学スポーツ科学部、日本体育大学体育学部、順天堂大学体育学部のスポーツ推薦指定高校になるように要望する。	
70	鳴門教育大学学校教育学部における小学校教育・体育学科教育コース並びに中学校・保健体育科教育コースのカリキュラムの充実を行い、優秀な体育指導者の人材育成を推進する。	
71	鳴門教育大学学校教育学部における高等学校教育・保健体育学科教育コースの新設を行う。	